

「つかの間の安堵感」

健康診断が終わった。
解放感の一言に尽きる。

健診センターから職場に直行、憑き物がおちたように仕事に邁進し、勤務終了。
いつになく軽い足取りで、いや気分はそうだが、実際は帰宅時ともなれば、足が軽いなんてことはありえない。
駅の階段をのぼる一步一步に膝の痛みを感じつつ、気遣いを匂わせる絶妙なスピードで追い抜いていく若者を横目に見ながら、ようやく改札をぬけ、ついにコンビニへ。

いろいろ買った。
ワインとか。
「今日はいいんじゃない？」と自分に言う。
よく考えると、今日はいいという意味がわからない。
何かをやり遂げたわけじゃなく、ただ健診が終わっただけ。
検査結果が3週間後に来るとわかっているじゃないか。
そこに目を覆いたくなるような数字が書かれているとわかっているじゃないか。
むしろ今夜は、サバの缶詰と玉ねぎのスライスの和え物的な、血液サラサラおかずを食べるべきじゃないか。

健診は毎年、冬。
まだ寒いから、とにかく冬を乗り切ろう。
あたたかくなったら、早起きしてウォーキングをしよう。
でもあたたかくなったところで「今日も疲れた…今日はムリ。明日から」の繰り返りで、いつしか夏。
暑すぎて、ウォーキングなんてしたら熱中症で倒れちゃう。
なんて言っている間に秋が来て、ようやくエンジンがかかり、来たる冬までになんとかしようとして焦り始める。
なんとかって何かというと、それは血液とか体脂肪とかのことである。
去年の秋もそうだった。
EPA 摂取しなきゃとか、慌てたよなあ。
プロテインも飲んだっけ。
白米を十六穀米に変えたっけ。



健診終了後のつかの間の安堵感は、年を越した瞬間の、不十分な大掃除への諦めに似ている。